

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W2BT

製品を使っていて困ったときやわからないことがあったときに使うマニュアルです。



対応するカメラについて

本機は、ソニーのレンズ交換式デジタルカメラなどのマルチインターフェースシューを搭載したカメラに対応しています。

- マルチインターフェースシューが搭載されたカメラであっても、使用できない場合や一部機能に対応していない場合があります。

- 本機は製造時にレシーバーとマイクロホンのペアで通信できるように設定しています。そのため一般のBluetooth機器で必要なペアリングやパスキーの入力操作は必要ありませんが、ペアで販売されている以外のレシーバーとマイクロホンの組み合わせや、複数のマイクロホン、一般のBluetooth機能を搭載しているパソコン、スマートフォンなどとは通信できません。

本機に接続可能なカメラについては、こちらからご確認ください。(別ウィンドウで開きます。)

各部の名称

準備

[本体と付属品を確認する](#)

[レシーバーを充電する](#)

[マイクロホンを充電する](#)

[レシーバーをカメラに取り付ける](#)

[マイクロホンを衣服などに取り付ける](#)

[ウインドスクリーンを取り付ける](#)

[レシーバーとマイクロホンをまとめて収納する](#)

録音

[モードスイッチについて](#)

[録音する](#)

[外部マイクで録音する](#)

[ランプ表示](#)

本機について

[使用上のご注意](#)

[Bluetooth®無線通信技術について](#)

[主な仕様](#)

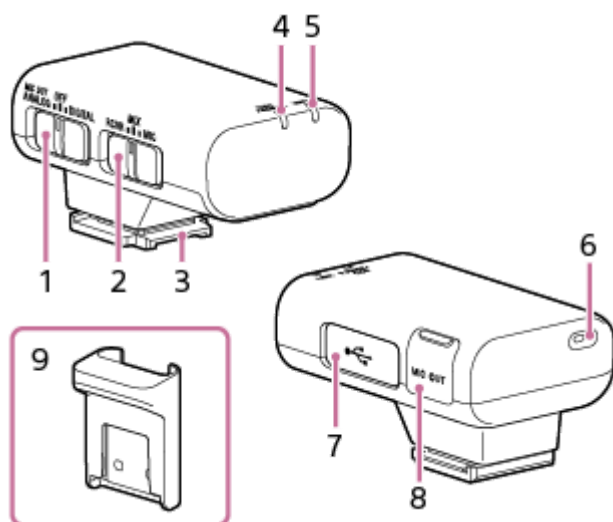
[商標について](#)

5-026-023-01(1) Copyright 2021 Sony Corporation

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W2BT

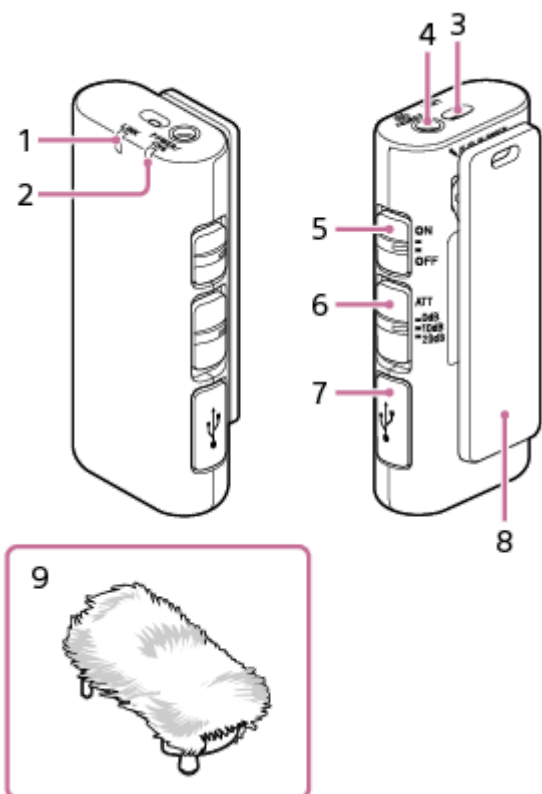
各部の名称

レシーバー



1. スライドスイッチ (MIC OUT ANALOG/電源OFF/DIGITAL)
アナログ音声出力/電源OFF/デジタル音声出力を切り替えます。
お使いのカメラがマルチインターフェースシューのデジタルオーディオインターフェース対応機器の場合は、「DIGITAL」に切り替えてください。
レシーバーからカメラへデジタル信号で音声を伝送することにより、ノイズの混入を抑えた音声収録を行うことができます。
電池の消耗を防ぐために、使用しないときはスイッチを「OFF」にしてください。
2. モードスイッチ (RCVR/MIX/MIC)
カメラで録画を開始する前にレシーバーのモードスイッチを切り替えることにより、録音するマイクを切り替えることができます。
3. マルチインターフェースフット
4. 電源ランプ (緑：電源ON、オレンジ：充電中)
レシーバーの電源、充電の状態が確認できます。
 - 電源を切った状態で、付属のマイクロUSBケーブルを使ってパソコンに接続すると、充電状態になりオレンジ色で点灯します。
 - オレンジ色で点滅している場合は、充電が必要です。
5. LINKランプ
レシーバーとマイクロホンの接続状態が確認できます。
6. 内蔵マイク
7. マイクロUSB端子
付属のマイクロUSBケーブルで接続し、レシーバーの充電/給電を行います。
8. マイク出力端子
レシーバーとカメラを付属の録音ケーブルで接続することにより、録音することができます。
ご使用時には、必ずスライドスイッチを「MIC OUT ANALOG」に切り替えてください。

マイクロホン



1. LINKランプ

レシーバーとマイクロホンの接続状態が確認できます。

2. 電源ランプ（緑：電源ON、オレンジ：充電中）

マイクロホンの電源、充電の状態が確認できます。

- 電源を切った状態で、付属のマイクロUSBケーブルを使ってパソコンに接続すると、充電状態になりオレンジ色で点灯します。
- オレンジ色で点滅している場合は、充電が必要です。

3. 内蔵マイク

4. 外部マイク入力端子

外部マイク（別売）を接続すると、自動的に外部マイクからの收音に切り替わります。

5. 電源スイッチ

電池の消耗を防ぐために、使用しないときはスイッチを「OFF」にしてください。

6. ATTスイッチ

収録したい音声の大きさに応じて選択します。大きい音を歪みを抑えて収録するには「20dB」に、小さい音を増幅して収録するには「0dB」に設定します。人の声を収録する場合は、「10dB」が推奨の設定です。カメラのレベルメーターで音量を確認しながら設定することをおすすめします。

7. マイクロUSB端子

付属のマイクロUSBケーブルで接続し、マイクロホンの充電／給電を行います。

8. クリップ

衣服などに取り付けるときに使用します。

9. ウィンドスクリーン

マイクロホンに取り付けて使用することにより、強い風や息が直接あたるときに発生する「ボコボコ」という雑音を減らします。

関連項目

- [レシーバーを充電する](#)
- [マイクロホンを充電する](#)
- [ウインドスクリーンを取り付ける](#)
- [レシーバーとマイクロホンをまとめて収納する](#)
- [モードスイッチについて](#)
- [録音する](#)
- [ランプ表示](#)

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W2BT

本体と付属品を確認する

万一、不足の場合はお買い上げ店にご相談ください。

() 内の数字は個数です。

- レシーバー (ECM-W2BT(R)) (1)
- マイクロホン (トランスミッター) (ECM-W2BT(T)) (1)
- ウィンドスクリーン (1)
- ポーチ (1)
- 録音ケーブル (1)
- マイクロUSBケーブル (1)
- 端子保護ホルダー (1)
- 印刷物一式

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W2BT

レシーバーを充電する

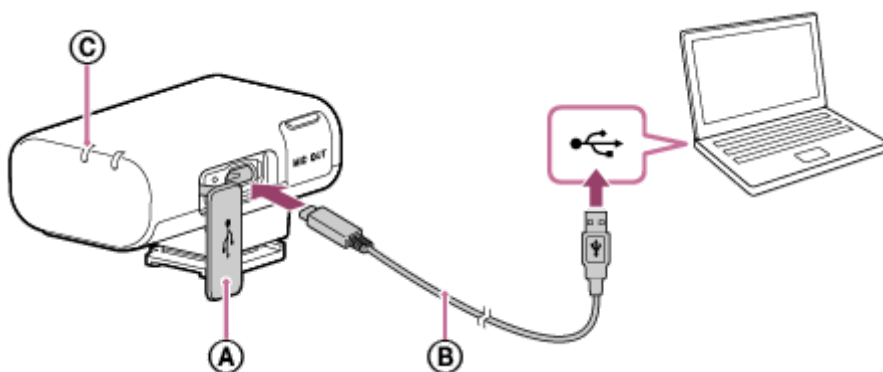
レシーバーをパソコンと接続して充電します。

1 レシーバーの電源を切る。

電源が入っている状態では、充電はできません。

2 端子カバーを開けて、レシーバーと起動しているパソコンを付属のマイクロUSBケーブルで接続する。

電源ランプが、オレンジ色で点灯します。



- Ⓐ 端子カバー
- Ⓑ マイクロUSBケーブル
- Ⓒ 電源ランプ

3 充電が完了したら、レシーバーとパソコンのマイクロUSBケーブルを外す。

電源ランプが消灯したら充電完了（満充電）です。

ご注意

- 充電中はレシーバーの電源を切った状態にしておいてください。充電中に電源を入れると、レシーバーは給電状態になり充電されません。
- レシーバーをパソコンに接続しているときに、無理な力を加えないでください。レシーバーやパソコンが破損することがあります。
- 電源を接続していないノートパソコンとレシーバーを接続した場合、ノートパソコンのバッテリーが消耗します。レシーバーを接続したまま長時間放置しないでください。
- 自作パソコンや改造したパソコンでの充電や接続は保証できません。同時にお使いになるUSB機器によっては、正常に動作しないことがあります。
- すべてのパソコンでの動作を保証するものではありません。

関連項目

- [ランプ表示](#)

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W2BT

マイクロホンを充電する

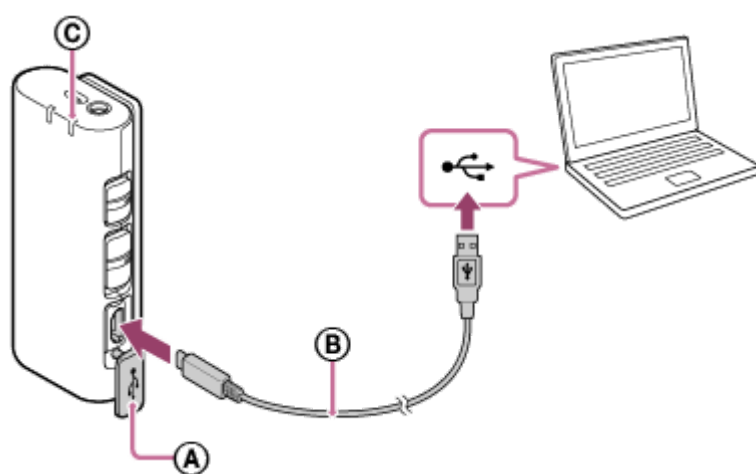
マイクロホンをパソコンと接続して充電します。

1 マイクロホンの電源を切る。

電源が入っている状態では、充電はできません。

2 端子カバーを開けて、マイクロホンと起動しているパソコンを付属のマイクロUSBケーブルで接続する。

電源ランプが、オレンジ色で点灯します。



- Ⓐ 端子カバー
- Ⓑ マイクロUSBケーブル
- Ⓒ 電源ランプ

3 充電が完了したら、マイクロホンとパソコンのマイクロUSBケーブルを外す。

電源ランプが消灯したら充電完了（満充電）です。

ご注意

- 充電中はマイクロホンの電源を切った状態にしておいてください。充電中に電源を入れると、マイクロホンは給電状態になり充電されません。
- マイクロホンをパソコンに接続しているときに、無理な力を加えないでください。マイクロホンやパソコンが破損することがあります。
- 電源を接続していないノートパソコンとマイクロホンを接続した場合、ノートパソコンのバッテリーが消耗します。マイクロホンを接続したまま長時間放置しないでください。
- 自作パソコンや改造したパソコンでの充電や接続は保証できません。同時にお使いになるUSB機器によっては、正常に動作しないことがあります。
- すべてのパソコンでの動作を保証するものではありません。

関連項目

- [ランプ表示](#)

5-026-023-01(1) Copyright 2021 Sony Corporation

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W2BT

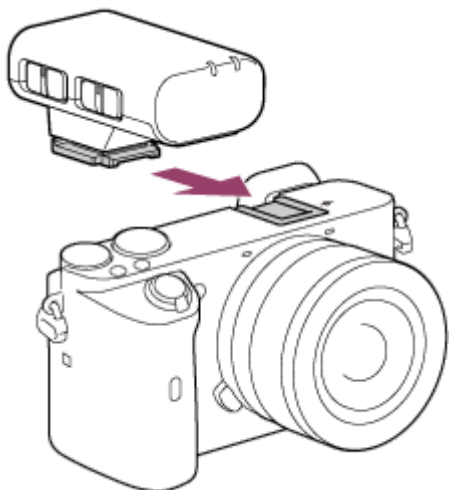
レシーバーをカメラに取り付ける

レシーバーをカメラに取り付けます。

ご注意

- 取り付ける前に、レシーバーを十分に充電してください。
- 取り付ける／取り外す際は、レシーバーとカメラの電源を切った状態で行ってください。

- 1 カメラのマルチインターフェースシューとレシーバーのマルチインターフェースフットの位置を合わせて、取り付ける。



ご注意

- レシーバーをカメラのマルチインターフェースシューにしっかり奥まで差し込んでください。
- カメラの内蔵フラッシュが上がっている場合は、下げてください。

取り外すとき

レシーバーを、取り付け方向と反対にスライドさせてください。

関連項目

- [レシーバーを充電する](#)

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W2BT

マイクロホンを衣服などに取り付ける

マイクロホンを衣服などに取り付けます。

ご注意

- 取り付ける前に、マイクロホンを十分に充電してください。

1 クリップで胸ポケットなどお好みの場所に取り付ける。

使用する状況や音の状態に合わせて最適な位置に取り付けてください。

ご注意

- ペースメーカーなど医療用電気機器を装着している場合は、胸ポケットや内ポケットへの装着、衣服への取り付けはしないでください。マイクロホンを医療用電気機器などの近くで使用すると、故障の原因となる恐れがあります。

関連項目

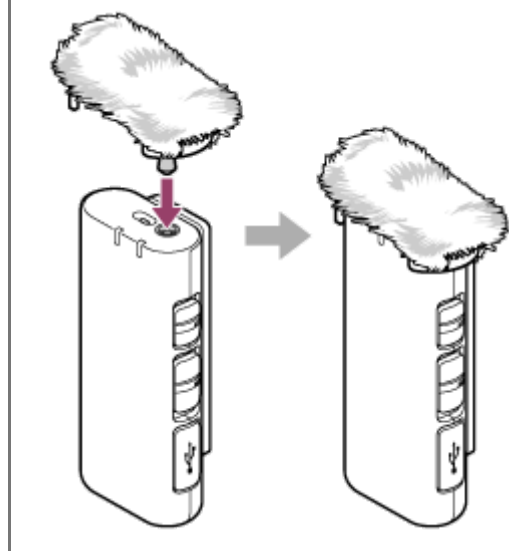
- [マイクロホンを充電する](#)

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W2BT

ウインドスクリーンを取り付ける

ウインドスクリーンをマイクロホンに取り付けて使用することにより、強い風や息が直接あたるときに発生する「ポコポコ」という雑音を減らします。

- 1 マイクロホンの外部マイク入力端子に、ウインドスクリーンの突起部を差し込む。



ご注意

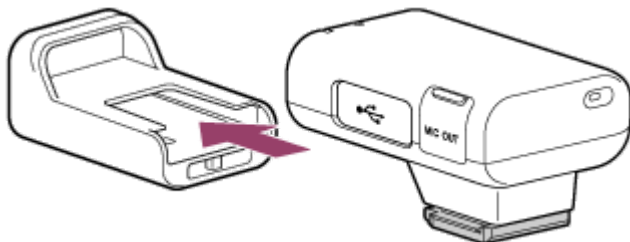
- ウインドスクリーンがぬれた場合は、マイクロホンから取り外し陰干ししてください。
- ウインドスクリーンのフレーム部分を持って、着脱してください。

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W2BT

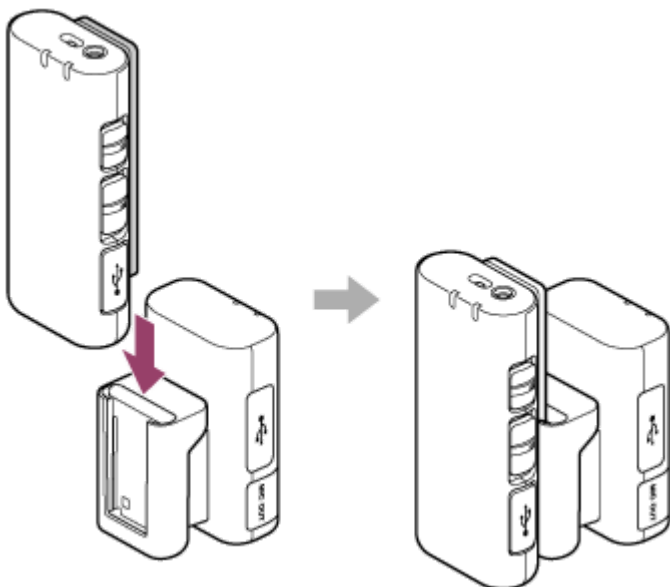
レシーバーとマイクロホンをまとめて収納する

付属の端子保護ホルダーを使用して、レシーバーとマイクロホンをまとめて収納することができます。

- 1 端子保護ホルダーに、レシーバーのマルチインターフェースフットを差し込む。



- 2 端子保護ホルダーのもう片方の面に、マイクロホンのクリップを引っ掛けるようにして上から差し込む。



ワイヤレスマイクロホン
ECM-W2BT

モードスイッチについて

カメラで録画を開始する前に、レシーバーのモードスイッチを切り替えてモードを選択します。

- MICモード
マイクロホンで収録した音声のみを録音します。
マイクロホン周囲や、取り付けられた被写体の音声を、カメラから離れた場所でも明瞭に録音することができます。
- MIXモード
マイクロホンで収録した音声と、レシーバーのマイクで収録したカメラ周辺の音声の両方を、ミックスして録音することができます。
- RCVRモード
レシーバーのマイクで収録したカメラ周辺の音声のみを録音します。

ご注意

- RCVRモードでご使用の場合、本機のオートパワーオフ機能は無効になります。
- ご使用後は、必ずレシーバーの電源を切ってください。

関連項目

- [録音する](#)
- [外部マイクで録音する](#)
- [ランプ表示](#)

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W2BT

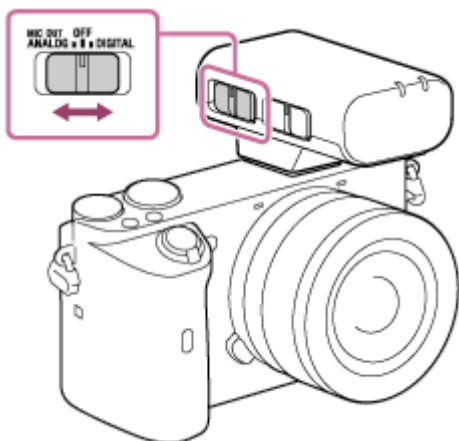
録音する

カメラに取り付けたレシーバーと、被写体の衣服などに取り付けたマイクロホンで音声を録音します。

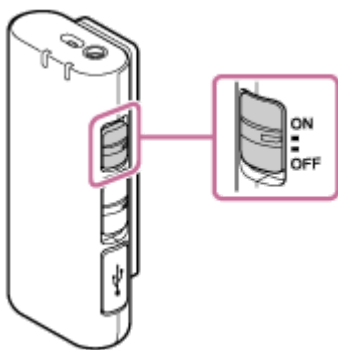
1 カメラの電源スイッチを入れ、スタンバイ状態にする。

2 レシーバーとマイクロホンの電源を入れる。

- レシーバーのスライドスイッチ（MIC OUT ANALOG/電源OFF/DIGITAL）で希望の出力方法を選択します。



- マイクロホンの電源スイッチを「ON」にします。



レシーバーとマイクロホンの電源を入れると、直後に両方のLINKランプが青色で遅い点滅をします。この状態で相手の機器を探索し、通信接続、認証を行っています。接続状態になり音声を明瞭に記録できる状態になると、両方のLINKランプが青色で点灯します。

接続状態にならない場合は、マイクロホンとレシーバーを近づけてお試しください。環境等の影響を受けている場合があります。

3 レシーバーのLINKランプが点灯していることを確認したうえで、カメラの録画スタートボタンを押す。

ご注意

- ご使用のカメラによっては、「DIGITAL」での出力に対応していない場合があります。対応機種については、以下のサイトでご確認ください。
<https://www.sony.net/dics/w2bt/>
- レシーバーのスライドスイッチを、カメラが対応していない出力方法に切り替えると、カメラの画面に注意文が表示される場合があります。その場合は対応している出力方法に切り替えてください。

- 録画中にレシーバーのモードスイッチを切り替えると、正しくモードが切り替わらなかったり、接続が途絶えて音声記録されなかったり、あるいはノイズが録音されてしまったりする場合があります。必ずいったん録画を停止してから切り替えてください。
- 録画中にマイクロホンのATTスイッチを操作すると、操作音が録音されてしまうことがあります。必ずいったん録画を停止してから切り替えてください。
- 本機を使用して撮影すると、録画スタート時に操作音（電子音）が記録される場合があります。お使いのカメラの操作音（電子音）を「切」にしてから録画することをおすすめします。詳しくは、お使いのカメラの取扱説明書をご覧ください。
- MIXモードでお使いの場合、レシーバーとマイクロホンが同じ音源の音声を收音すると、エコーや音割れが起きる場合があります。レシーバーとマイクロホンが同じ音声を收音しないよう、充分離れてお使いください。
- MIXモードでお使いの場合、マイクロホンの電源が入っていない状態や、レシーバーとマイクロホンが接続状態でないときに録画を開始すると、無音になったり、「ピー」というノイズが記録される場合があります。レシーバーとマイクロホン両方のLINKランプが青色で点灯し、接続状態になっていることを必ず確認して、録画を開始してください。
- レシーバーは、カメラからも電源が供給されます。ご使用のカメラによっては、電源が供給されない場合があります。対応機種については、以下のサイトでご確認ください。
<https://www.sony.net/dics/w2bt/>

関連項目

- [モードスイッチについて](#)
- [ランプ表示](#)

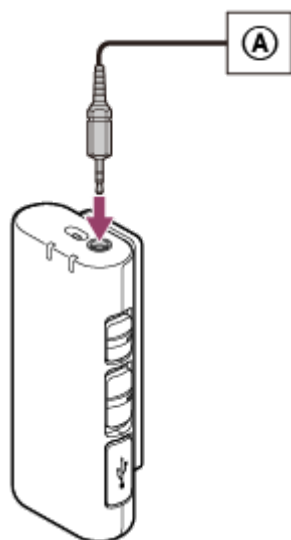
ワイヤレスマイクロホン
ECM-W2BT

外部マイクで録音する

外部マイク（別売）をマイクロホンに接続して録音します。

1 マイクロホンの電源を切った状態で、外部マイクを外部マイク入力端子に接続する。

内蔵マイクは自動的に切れ、外部マイクの音が録音されます。



Ⓐ 外部マイク

ご注意

- マイクロホンにウインドスクリーンを取り付けている場合は、取り外してください。
- プラグインパワー対応の外部マイクをご使用ください。外部マイクの電源はマイクロホンから供給されます。

関連項目

- [モードスイッチについて](#)

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W2BT

ランプ表示

機器や通信の状態によって、ランプは以下のように点灯・点滅・消灯します。

電源ランプ

状態	レシーバー	マイクロホン
電源を入れた直後	緑色で点灯	緑色で点灯
接続状態になり、音声が見事に記録できる	緑色で点灯	緑色で点灯
レシーバーの電源を切る	消灯	緑色で点灯
マイクロホンの電源を切る	緑色で点灯	消灯
通信状態が悪く音声が途切れるとき	緑色で点灯	緑色で点灯
バッテリーが残り少なくなったとき	オレンジ色で点滅	オレンジ色で点滅
電源を切った状態で充電しているとき	オレンジ色で点灯	オレンジ色で点灯

LINKランプ

状態	レシーバー	マイクロホン
電源を入れた直後	青色で遅い点滅 (待ち受け状態) *1 *2	青色で遅い点滅 (待ち受け状態) *1 *2
接続状態になり、音声が明瞭に記録できる	青色で点灯	青色で点灯
レシーバーの電源を切る	消灯	青色で遅い点滅 (待ち受け状態) *1
マイクロホンの電源を切る	青色で遅い点滅 (待ち受け状態) *1 *2	消灯
通信状態が悪く音声が途切れるとき	青色で速い点滅	青色で速い点滅
電源を切った状態で充電しているとき	消灯	消灯

*1 この状態が5分続くと、本機のオートパワーオフ機能が働きます。使用を再開するためには、本機の電源を切ってから、再度電源を入れてください。

*2 RCVRモードでご使用の場合、本機のオートパワーオフ機能は無効になります。

関連項目

- [各部の名称](#)

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W2BT

使用上のご注意

スタートガイド（付属）の「取り扱い上のご注意」もあわせてお読みください。

- カメラの内蔵フラッシュをお使いの場合は、レシーバーを取り外してください。
- 録音中はカメラやレンズの作動音、操作音などが記録されてしまうことがあります。録音中に本機に触れると、ノイズとして録音されてしまいます。
- 使用中、イヤホンをマイクに近づけると「ピー」という音が発生することがあります（ハウリング現象）。その場合は、イヤホンとマイクの距離をできるだけ離すか、イヤホンの音量を下げてください。
- レシーバーを持ってカメラを持ち上げないでください。レシーバーが破損したり、カメラが落下する恐れがあります。
- レシーバーを持ち歩く際は、端子部の破損防止のためにも、カメラから取り外して付属の端子保護ホルダーを取り付け、ポーチに入れてください。
- 本機をご使用にならない際は、レシーバーのマルチインターフェースフットに端子保護ホルダーを取り付けて保護してください。
- 温度の低い場所でマイクロホンをご使用になる場合は、常温時（25℃）に比べて電池の性能が低下しますので、使用できる時間が短くなります。
- 本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能の使用を中止してください。電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となる恐れがあります。

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W2BT

Bluetooth®無線通信技術について

- Bluetooth無線通信技術とは、パソコンとその周辺機器、スマートフォンなど、さまざまな機器同士を無線で接続し、相互の通信を可能にする技術の名称です。
- 本機は製造時にレシーバーとマイクロホンのペアで通信できるように設定しています。そのため一般のBluetooth機器に必要なペアリングやパスキーの入力操作は必要ありませんが、ペアで販売されている以外のレシーバーとマイクロホンの組み合わせや、複数のマイクロホン、一般のBluetooth機能を搭載しているパソコン、スマートフォンなどとは通信できません。

ご注意

- 本機は以下の状況において通信感度に影響を受けることがあります。
 - － レシーバー前部とマイクロホンの間に人体や金属、壁または反射面などの障害物がある場合
 - － 無線LANが構築されている場所、複数のBluetooth機器を近距離で使用している場所、電子レンジを使用中の周辺、その他電磁波が発生している場所など
- マイクロホンをカメラに近づけすぎると、電波の影響で、記録される音声にノイズが入る場合があります。1 m以上離れた状態でご使用ください。
- 通信状態が悪化して音声途絶えたり、ノイズが発生する場合、レシーバーのLINKランプが速い青点滅をします。距離が適切か、障害物がないかなど確認し、LINKランプが安定して青点灯している状態でご使用ください。

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W2BT

主な仕様

通信仕様

通信方式	Bluetooth標準規格 Ver. 5.0
出力	Bluetooth標準規格 Power Class 1
主なBluetoothプロファイル	Advanced Audio Distribution Profile
通信距離*	最大 200 m

* マイクロホンを立てて、レシーバーを真っ直ぐに向かい合わせたときの目安となる距離です。金属、人体などの障害物や反射面の有無など周囲の状況や電波状況により変化します。

レシーバー

マイク方式	モノラル 無指向性
周波数特性	20 Hz～20,000 Hz
電源	内蔵リチウムイオンバッテリー（約3.7 V）／マルチインターフェースシューから供給
消費電力	約0.3 W
連続使用時間	約3時間（内蔵バッテリー満充電、アナログ音声出力使用時）（マルチインターフェースシューから供給時：約18時間）
充電時間	約1時間30分（パソコン経由）
動作温度	0 °C～40 °C
保存温度	-20 °C～+45 °C
外形寸法（約）	34 mm × 28.7 mm × 53 mm（幅／高さ／奥行き）
質量（約）	28 g

マイクロホン（トランスミッター）

マイク方式	モノラル 無指向性
外部マイク入力端子	Ø3.5 mmステレオミニジャック
周波数特性	20 Hz～20,000 Hz
電源	内蔵リチウムイオンバッテリー（約3.7 V）
消費電力	約0.2 W
連続使用時間	約9時間（内蔵バッテリー満充電時）
充電時間	約3時間（パソコン経由）

動作温度	0 °C~40 °C
保存温度	-20 °C~+45 °C
外形寸法 (約)	30.6 mm × 67.6 mm × 19 mm (幅/高さ/奥行き)
質量 (約)	27 g

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

5-026-023-01(1) Copyright 2021 Sony Corporation

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W2BT

商標について

- Bluetooth®ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、ソニー株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- Multi Interface Shoe（マルチインターフェースシュー）はソニー株式会社の商標です。
- Qualcomm aptXはQualcomm Technologies, Inc.および/またはその子会社の製品です。Qualcommは米国および他の国々で登録されたQualcomm Incorporatedの商標です。aptXは米国および他の国々で登録されたQualcomm Technologies International, Ltd.の商標です。



Qualcomm® aptX™ Low Latency